

観点	内容と特色	具体例
I. 教科の目標達成への配慮		
○学習指導要領の教科の目標達成に向けて、どのような配慮がなされているか。 ・道徳的諸価値についての理解	◎各教材には、冒頭に「導入」、末尾に「まとめる（終末）」「ひろげる（発展）」を設置し、1時間の授業の目的や流れを明確にしました。導入でもった問題を意識して学習に臨み、終末で学習内容をふり返ることによって、授業開始時と終了時における考え方や心の変容が実感できるよう意図して作成しています。	→1～6年 各教材1～40
・自己を見つめる	◎冒頭の「導入」で児童の経験を想起させたり、主題に関わる問題意識をもたせたりすることで、教材の内容に興味・関心を抱かせます。 それによって学習意欲を高め、目的意識をより明確にした上で、学習に取り組めるようにしています。	→各教材冒頭
・物事を多面的・多角的に考える	◎児童に寄り添うキャラクターを設定し、共感や気づき、考えるためのポイントや考えを広めるための見方など、さまざまな「問いかけ」を行えるよう配慮しました。多様な感じ方や考え方を実感できるようにし、児童の多面的・多角的な思考を促すよう工夫しています。	→各教材下部 キャラクターの投げかけ
・自己の生き方についての考え方を深める	◎終末では「まとめる」として、その間に学習した内容をふり返るポイントを提示し、「考えたこと」「分かったこと」「学んだこと」を確認します。学習内容をまとめる活動を通して、学んだ道徳的諸価値を自分との関わりの中で捉え、発展させようとすることができるよう配慮しています。	→各教材末尾 「まとめる」
・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる	◎発展では「広げる」として、「道徳の時間」で学んだことを他教科や学校での活動、家庭生活、地域社会などへつながりをもたせ広げていくためのポイントを提示しています。1時間の授業の流れを通して、道徳的諸価値を理解し、それを大切にする心情を育てるとともに、実生活へ生かそうとする意欲を引き出すことができるよう、配慮しています。	→各教材末尾 「広げる」
○学習指導要領の内容の指導に当たって配慮すべき事項に対し、どのような配慮がなされているか。 ・道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行うこと。 特に、各教科における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に係る指導を補うことや、児童	◎教科書の冒頭にオリエンテーションとして「さあ、道徳の学習が始まります」(P.2～9)を配置することで、道徳の学習で「どういったことを、どのように学ぶのか」を明らかにし、道徳性を養う意義を児童自らが考え理解し、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるよう配慮しました。 ◎学校や地域の実態などに即して弾力的に取り扱えるように、第1学年は6本、第2～第6学年は5本のふろく教材を用意しました。	→全学年 P.2～9 「さあ、道徳の学習が始まります」 →ふろく教材 (1年 35～40, 2～6年 36～40)

観点	内容と特色	具体例
<p>や学校の実態などを踏まえて指導をより一層深めること、<u>内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。</u></p>	<p>◎各教材には主となる内容項目と関連する内容項目をそれぞれ設定し、内容項目同士が相互に関係しあい、多面的・多角的に思考を進められるよう配慮しました。</p>	<p>→最終ページ 内容項目別教材一覧</p>
<p>・児童が自ら道徳性を養う中で、<u>自らを振り返って成長を実感したり、これから課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること</u>。その際、道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、<u>主体的に学習に取り組むことができるよう</u>にすること。</p>	<p>◎オリエンテーションの中で、「どうしてだろう」「なぜだろう」と、児童が常に「問い合わせ」をもって授業に臨むことの意味を示しました。各教材においても、導入での問い合わせをもたせる活動や、教材内でのキャラクターによる問い合わせを通して、児童がただ教材を読むのではなく、<u>自主的・主体的に問題について考える学習ができるような工夫をしています</u>。教材末尾には考えたことをまとめ、授業後の生活に広げられるよう、「まとめる」「広げる」といった終末・発展の工夫を取り入れています。</p> <p>◎学習後はふり返りを記述し蓄積できるよう、巻末自己評価シート「<u>学びの足あと</u>」を記入します。<u>授業後の心の動きや学びを継続し道徳性をより深め育み、書き溜めることにより児童自らが成長を実感し、新たな課題や目標を見つけていく学習に取り組めます</u>。</p>	<p>→全学年 P.4～5 「道徳の時間は、こんな時間です」</p> <p>→巻末折り込み 「学びの足あと」</p>
<p>・多様な感じ方や考え方に対する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えをもとに話し合ったり書いたりするなどの<u>言語活動を充実すること</u>。</p>	<p>◎オリエンテーションにおいて、話し合い活動についての方法を掲載し、その重要性や目的が分かるようにしました。また、「道徳のノート」の例を提示し、<u>書いてまとめるこ</u>とによって理解を深めたり整理したりできることを示しました。</p> <p>◎本編教材では言語活動との関連もふまえ、教材を読むことで読書活動を行い、また学習内容を広げるために、題材と関連する本を読む読書活動や考えたことをノートなどに書いて言語化する活動を終末・発展で提案しています。また、コラム「ことばのたからもの」では、人生の道標や支えとなるような名言を紹介し、教材とも関連させることで、言葉のもつ力を実感できるように掲載しました。</p>	<p>→全学年 P.4～5 「道徳の時間は、こんな時間です」</p> <p>P.9 「道徳のノート(例)」</p> <p>→6年 P.127 「27 誠実な人—吉田松陰—」 広げる</p> <p>→3年 P.131 「29 四人五きやく」 広げる</p> <p>→コラム 「ことばのたからもの」 (1年P.131／2年 P.143／3年P.157／ 4年P.159／5年 P.163／6年P.167)</p>
	<p>◎「<u>学びの足あと</u>」に授業後の記録をつけることで、自分の考えを表現する力を育み、学習を継続的に深められるようにしました。</p>	<p>→巻末折り込み 「学びの足あと」</p>
<p>・情報モラルに関する指導を充実すること。また、児童の発達の段階や特性などを考慮し、例えば、社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係に置いて考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努めること。</p>	<p>◎情報化への対応に関しては、「規則の尊重」「善惡の判断、自律、自由と責任」「相互理解、寛容」「節度、節制」といった内容項目の教材において情報モラルに関わる内容を題材として扱い、情報社会で適正な活動を行うためのもととなる考え方や態度について考えられるようにしました。また、情報モラルは特に配慮が必要な項目と捉え、全学年とも本編の教材の他にコラムとしても取り上げています。その他、「健康教育」「防災教育」「キャリア教育」「主権者教育」などの諸課題についても、教材の題材として取り込み、その学習を行うことで児童が自分自身にひきつけて考えられるようにしました。</p>	<p>→5年 P.62 「コラム だれの研究？」</p> <p>5年 P.100 「22 約束」</p> <p>5年 P.104 「コラム スマホと上手に付き合うために」(情報モラル) など</p> <p>→2年 P.60 「14 ピーマンマンとよふかし大まおう」(健康教育) など</p>

観点	内容と特色	具体例
	<p>◎いじめの防止や安全の確保といった課題については、児童にとって喫緊の問題であると捉え、各内容項目の教材において、直接的・間接的にいじめについて児童自身の問題として捉えられるような教材を選定しました。また、本編教材のほかに、全学年にコラム「みんな仲よし楽しい学校」を発達段階に合わせて設置し、特に学校生活において、児童自らがいじめの防止などに主体的に関わる態度を育めるように配慮しました。</p> <p>◎障がいの有無や文化の違いなどにとらわれることなく、互いのよさを認め合いながら協働し、共に生きていこうとする態度を育めるように配慮しました。</p> <p>◎「規則の尊重」「公平、公正、社会正義」「国際理解、国際親善」「生命の尊さ」「自然愛護」といった内容項目において、持続可能な開発のための教育（ESD）を意識した学習ができるよう配慮しています。</p>	3年 P.158 「36台風の日」(防災教育)など 6年 P.40 「8世界がおどろく七分間清掃」(キャリア教育)など → 6年 P.74 「16森川君のうわさ」など 「コラム みんななかよし楽しい学校」(1年 P.130／2年 P.142／3年 P.156／4年 P.158／5年 P.144／6年 P.138) → 5年 P.114 「25働く幸せ—チョーク工場の本田さん—」 6年 P.86 「18技術で『障がい』をなくしたい—遠藤謙一—」 → 4年 P.48 「10自分たちにできるエコ活動」(規則の尊重) 1年 P.100 「27エマさんのこたえあわせ」(国際理解、国際親善)など
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。 	<p>◎教材には、家庭での出来事や地域との交流を描いたものなど、家庭や地域との連携がとりやすい題材を多種取り入れています。また、家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を教材末尾の「広げる」において提示し、学習したことが児童の日常へつながるように配慮しました。</p> <p>◎子どもたちが地域社会の一員として、他者と連携、協力しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担う力を養うことを目指した教材を各学年に取り入れています。</p>	→ 1年 P.38 「11まちたんけん」 2年 P.30 「6げんかんそうじ」など → 4年 P.16 「2みんなのためにできること」 5年 P.130 「29心の管理人」など
<ul style="list-style-type: none"> ○教育基本法に示された教育の目標を踏まえ、どのような配慮がなされているか。 ・真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う（教育基本法第二条一） 	<p>◎各学年に取り上げた40本の教材それぞれに主題を設定し、道徳的価値の理解とともに、その行為を生み出す心を学び感じること、ならびに学んだことを実践しようとする意欲と態度を育むことを主題のねらいとしています。</p> <p>◎教師用指導書において、これらの主題のねらいを詳細に設定するとともに、主題設定の理由を目標観、児童観、教材観、指導観の4つの視点から解説することで、子どもたちが深い学びを行うための指導ができるよう工夫しています。</p>	→ 各教材冒頭 主題

観点	内容と特色	具体例
<p>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い及び自立の精神を養う (教育基本法第二条二)</p>	<p>◎「個性の伸長」の内容項目の教材によって個性を生かすことを学び、偉人や活躍する著名人などの生き方を通して、キャリア教育的な見地からも、特性を育み学べる教材を用意しました。</p>	<p>→ 4年 P.52 「11わたしのゆめ」 5年 P.92 「20変えたもの・変えなかったものー内川聖一ー」など</p>
<p>・職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う (教育基本法第二条二)</p>	<p>◎勤労を重んずる態度として「勤労、公共の精神」の内容をもとに、様々な人物に焦点を当て題材を吟味し、キャリア教育にもつながる、生き方を学ぶ教材を用意しました。また、「勤労・公共の精神」の内容項目の教材では、働くことの社会的意義と充実感に触れ、みんなのために働くことのよさを実感できるよう配慮しました。</p>	<p>→ 4年 P.70 「15石油列車、東北へ向かって走れ！」 5年 P.114 「25働く幸せーチョーク工場の本田さんー」など</p>
<p>・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる (教育基本法第二条三)</p>	<p>◎「善惡の判断、自律、自由と責任」「公正、公平、社会正義」の内容をもとに、責任ある行動ができる姿、分け隔てをせず、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める姿をめざせるように配慮しています。</p> <p>◎「友情、信頼」の内容項目の教材では、互いに信頼し、よりよい人間関係を構築して集団生活を送っていく態度を養えるよう配慮しました。</p>	<p>→ 2年 P.38 「9やさい村の子どもたち」 3年 P.98 「22思い切って言ったらどうなるの？」など</p> <p>→ 6年 P.28 「5陽子、ドンマイ！」など</p>
<p>・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う (教育基本法第二条三)</p>	<p>◎「勤労・公共の精神」の内容の教材の中で、多様な社会奉仕活動や学校内での奉仕活動などを取り上げ、社会の構成員として、主体的に社会の形成に参画し、さまざまな課題と向き合い、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。</p> <p>◎学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさなどを体験する活動を提示し、他教科の学習や家庭・地域での活動で実際にを行うことを提示しています。</p>	<p>→ 6年 P.66 「14広村堤防の清掃ボランティア」など</p> <p>→ 1年 P.12 「2あいさつでげんき」など</p>
<p>・命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う (教育基本法第二条四)</p>	<p>◎「生命の尊さ」「自然愛護」の内容をもとに、命がかけがえのない大切なものであることを知り、自他の命を尊ぶ心を育成するとともに、自然の不思議さ、雄大さを感じ、大切にしていく態度を育成できるよう配慮しています。</p>	<p>→ 3年 P.43 「重点主題自分のいのち」 5年 P.122 「27自然を守るエゾリス」など</p>
<p>・伝統と文化を尊重し、それを育んできた我が国と郷土を愛する (教育基本法第二条五)</p>	<p>◎「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容を中心に、地域に根づく伝統や文化、行事、先人など、児童にとって身近なものを題材とした教材を取り入れ、伝統と文化を尊重し、国や郷土を愛する態度を養うことにもつながるように配慮しました。題材は各地域のものであっても、どの地域においても活用できるよう、汎用性をもたせたつくりとなっています。</p>	<p>→ 3年 P.74 「16郷土かるた」 6年 P.104 「22これが日本」など</p>
<p>・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う (教育基本法第二条五)</p>	<p>◎「国際理解、国際親善」の内容項目の教材や、諸外国の生活や文化について紹介したコラムを各学年に配置し、諸外国の文化や生活について触れながら、その文化や生活を尊重し、共に親しむことにつながるように配慮しました。また、オリンピックやパラリンピックを題材にした教材やコラムを各学年に配置することで、自国の選手の活躍や国際的な大会としての見地もふまえた国際理解・親善にもつながる教材を掲載しました。</p>	<p>→ 6年 P.108 「23フーバーさん」 4年 P.118 「26十六番目の代表選手」 4年 P.122 「コラム パラリンピックの競技」など</p>

観点	内容と特色	具体例
II. 教材選定上の特色		
○学習指導要領の内容項目を学習するために、適切な教材が選定されているか。	<p>◎幅広い知識と教養を身に付けるため、学級や学校生活など、児童が自分のこととして考えやすい話題や、読み継がれてきた名作、人間としての生き方に迫ることができる題材を用意しています。学習指導要領における目標、ならびに各学年の内容をもれなく指導できるよう、第1学年に34本、第2学年～第6学年に35本の教材を掲載するとともに、地域や各学校の実態に応じて入れ替えができる教材を第1学年に6本、第2学年～第6学年に5本掲載することで、多様な指導に合わせられる構成になっています。</p> <p>◎特に「重点的な指導を必要とすることがら」(『学習指導要領』第3章特別の教科 道徳 第3の1)について、長期的な見通しのもとにしっかり育むという趣旨のもと、連続的に扱うことにより効果が得られる教材を児童の発達段階に考慮して設定しています。</p> <p>◎学校内における他学年同士の活動を題材とした教材を当該学年に配置し、双方の視点から連動した指導ができるよう工夫しています。</p>	→各学年 教材40本 →各学年 重点主題 例・1年 P.61「重点主題 まいにちをきちんとよく」 →1年 P.16「4がっこ うたんけん」 2年 P.14「2学校たんけん」など
○生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応などをはじめとした、現代的な課題を題材とした教材が掲載されているか。	<p>◎「生命の尊厳」「自然」「伝統と文化」「先人の伝記」「スポーツ」「情報化への対応」といった現代的な課題を題材とした教材は、発達段階を考慮しながら全学年に設置しました。</p> <p>◎特に「生命の尊さ」については、人間尊重の精神を重んじ、生命に対する畏敬の念をもち、人間としてよりよく生きる喜びにつながるよう、重点主題として6年間の見通しをもって取り組めるようにしました。</p> <p>◎いくつかの教材には次ページに内容を補填するコラムを設け、児童の興味・関心を喚起するとともに、教材や内容項目に対する考え方を深められるようにしました。</p> <p>◎情報社会を生きるための情報モラルを取り扱った教材、ならびにコラムを各学年にそれぞれ1～2本用意し、6年間を通して学習できるように配慮しています。</p>	→6年 P.139「重点主題 命かがやかせて」(生命の尊厳)など 3年 P.26「5目をさますたね」(自然)など 6年 P.180「39よみがえれ熊本城」(伝統と文化)など 4年 P.124「27ノーベル賞の生みの親—アルフレッド・ノーベル—」(先人の伝記)など 2年 P.52「12オリンピックとパラリンピックのはた」(スポーツ)など 5年 P.100「22約束」 P.104「コラム スマホと上手に付き合うために」(情報モラル)など
○他教科や特別活動と関連するものとして使用できる工夫が、道徳教材の中にどのようになされているか。	<p>◎各学年の他教科での学習や特別活動を意識して、教材の題材や発展での活動を精選しています。</p> <p>◎指導書では関連、連携のための指導計画例を示し、授業前や授業後の他教科や特別活動、日常生活と授業のつながりが明確になるよう工夫しています。</p>	→5年 P.84「18世界の文化遺産」(社会科)など 5年 P.36「7まかせてみようよ」(特別活動・宿泊学習)など
○挿絵、図版は適切に用いられているか。	◎教科書のサイズを大判化(A4変型版)することで、写真やイラストが引き立ち、児童の興味・関心や思考が深まるようになりました。大判化による児童の負担感の軽減のために、紙の厚みを抑えて軽量化を図っています。	→教科書 紙面版型

観点	内容と特色	具体例
III. 学習・指導への配慮		
○教材、構成の配列や分量は適切に設定されているか。	<p>◎教材の内容が分かりやすく、かつ考える時間を十分に取れるよう、発達段階に応じて学年ごとの教材の文章量に配慮しました。</p> <p>◎学習時期と教材内容の季節が一致するように教材の順番を設定することで、児童が自分事として教材を捉えやすいように配慮しています。</p>	→1～6年 各教材
○発達段階に配慮した表記・表現の工夫がどのようになされているか。	<p>◎漢字は前学年までに習った漢字の使用を基本とし、文節で改行を行うなど、読みやすさに配慮しました。また第3学年までは、すべての漢字にふりがなをふっています。</p> <p>◎児童にとってなじみのない言葉や分かりづらいものについては脚注で説明し、それらが思考の妨げにならないよう配慮しました。</p> <p>◎教材内の登場人物を分かりやすくするために、教材の冒頭に登場人物を整理して表示しています。</p>	→1～6年 各教材 →4年 P.25 「4十さいのプレゼント」注釈「奥秩父」など
○特別支援教育等に対しどのように配慮がなされているか。	<p>◎A4変型版と大判化した版型を使用し、スペースが大きく見やすい紙面になるよう配慮しています。</p> <p>◎目次の各種アイコンについて説明を入れることで、内容を分かりやすくしています。また、オリエンテーションの構成を分かりやすく工夫しました。</p> <p>◎図版やグラフなどの配色について、専門の方に確認していただき、だれにでも見やすい配色となるように配慮して編集しています。</p>	→教科書 紙面版型 →教科書 各学年もくじ、オリエンテーション →教科書内各種図版、イラストなど
○体験的活動を指導に取り入れるための工夫がどのようになされているか。	<p>◎オリエンテーション内において、体験することの重要性に児童が着目できるようにしました(P.4～5「考える」)。また、授業で学習したことが生活の場での体験につながる意識づけができるような構成とっています。</p> <p>◎学習のまとめとして、挨拶や言葉遣いなど具体的な道徳的行為を行い、そのよさや難しさなどを体験する活動を示唆したり、他教科の学習や家庭・地域での活動で実際にやってみることを提示したりしています。</p> <p>◎コラム「みんなでやってみよう！」を全学年に設置し、よりよい人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動を提示しています。</p>	→全学年 P.4～5 「さあ、道徳の学習が始まります」内「考える」 →1年 P.13 「2あいさつでげんき」内「広げる」など →2年 P.42 「コラム『きらきら』みーつけた」など
○主体的・対話的な問題解決型学習を行うための工夫がどのようになされているか。	<p>◎児童が自ら「問い合わせ」をもって授業に臨むことの重要性を示しました。各教材においても、児童の経験や生活中から「問い合わせ」がもてるよう、さまざまな設問(導入)の工夫をしています。</p> <p>◎教材の下段には、「考える」投げかけを配置しました。児童の考えを広める視点から問い合わせを行い、児童が多角的・多面的に考えられるようにサポートし、さまざまな考え方や意見をもとに、問題の解決にむけて取り組むことができるよう配慮しています。</p> <p>◎指導書の中で、主発問を明確にする、板書例を段階ごとに3つ用意するなど、児童の主体的・対話的な問題解決を促すための教師の手立てについて分かりやすく解説しています。</p>	→各教材冒頭 →各教材 下部キャラクターの投げかけ
○児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすための評価の工夫がどのようになされているか。	◎児童が学習後のふり返りができるように、卷末に自己評価シート「学びの足あと」を用意しました。授業後の心の動きや学びを継続して記しておくことで、自ら成長を実感し、新たな課題や目標を見つけて学習に取り組めるように配慮しています。また、学期末や年度末といった長いスパンでのふり返りもできるように、「まとめ」欄も設けています。	→巻末折り込み 「学びの足あと」

観点	内容と特色	具体例
	◎オリエンテーション内に道徳ノートの例を提示し、各時間の考え方や中長期的な考え方の変容を見ることができる評価のためのツールとして利用できるよう提案しています。教材内の「広げる」においても、考えたことをノートなどに書いて記録する活動も取り入れながら、子どもの変容を評価できるような工夫を行っています。	→全学年 P.9 「道徳のノート (例)」 3年 P.91 「20 わたしだって」内「広げる」など
○家庭、地域との連携した道徳教育を行うための工夫がどのようになされているか。	◎教材には、家庭での出来事や地域との交流を描いたものなど、家庭や地域との連携がとりやすい題材を多種取り入れています。各教材末尾の「広げる」においても家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示し、学習したことが児童の日常へつながるように配慮しました。	→2年 P.106 「27 かいらんばん」 6年 P.14 「2 松井さんの笑顔」など
○ICTを活用した教育を行うための工夫がどのようになされているか。	◎教師用指導書にはデジタル教材がセットになっており、教材の内容を深める動画や教科書紙面を大きく投影できる電子ブック、教材内のイラストデータなどが収録されています。デジタル教科書を活用することにより、教材の内容をより深め、効果的な学習ができるよう工夫しています。※指導書セットご購入の場合	→教師用指導書セット 付録 ROM 「デジタル教材 デジ徳」
○印刷、製本上でどのような配慮がなされているか。	◎印刷には植物油インキを使用しています。また、製本には針金を使用せず、堅牢性を保ちながら環境にも配慮しています。製本の際には、はがれにくい糊を使用するとともに、表紙に筋を入れることで、頻繁に開閉しても壊れないよう工夫しました。	→教科書本体

IV. 内容項目 4つの視点別特色

○A・主として自分自身に関すること	<p>◎自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図るための教材を各学年に7～12点配置しています。</p> <p>この視点の教材には、次の内容項目が系統的に考えられるよう網羅されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断、自律、自由と責任 ・正直、誠実 ・節度、節制 ・個性の伸長 ・希望と勇気、努力と強い意志 ・真理の探究（5～6年）  <p>Aの視点のシンボルマーク</p>	→1年 P.52 「15 ぼくはいかない」(善悪の判断、自律、自由と責任) 3年 P.118 「27 太郎のいどう教室」(節度、節制) 2年 P.116 「30 おりがみ名人」(希望と勇気、努力と強い意志) 5年 P.10 「1 帰ってきた、はやぶさ」(真理の探究)など
○B・主として人との関わりに関するこ	<p>◎自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図るための教材を各学年に8～12点設置しています。この視点の教材には、次の内容項目が系統的に考えられるよう網羅されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切、思いやり ・感謝 ・礼儀 ・友情、信頼 ・相互理解、寛容（3～6年）  <p>Bの視点のシンボルマーク</p>	→6年 P.134 「29 最後のひと葉」(親切、思いやり) 5年 P.26 「5 助け合い傘」(感謝) 1年 P.98 「26 だいじなわすれもの」(礼儀) 2年 P.80 「20 モムンとヘーテ」(友情、信頼) 3年 P.88 「20 わたしだって」(相互理解、寛容)など

観点	内容と特色	具体例
○C・主として集団や社会との関わりに関するこ	<p>◎自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うための教材を各学年に12～14点設置しています。</p> <p>この視点の教材には、次の内容項目が系統的に考えられるよう網羅されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則の尊重 ・公正、公平、社会正義 ・勤労、公共の精神 ・家族愛、家庭生活の充実 ・よりよい学校生活、集団生活の充実 ・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 ・国際理解、国際親善 	 <p>Cの視点の シンボルマーク</p> <p>→4年 P.100 「22 雨のバ スていりゅう所で」(規 則の尊重)</p> <p>5年 P.50 「10 ガンジー のいかり」(公正、公平、 社会正義)</p> <p>1年 P.112 「30 ぎんの しづく」(家族愛、家 庭生活の充実)</p> <p>6年 P.92 「19 お茶の 心」(伝統と文化の尊 重、国や郷土を愛する 態度)</p> <p>2年 P.90 「23 ジョゼ くんとおりがみ」(国 際理解、国際親善) な ど</p>
○D・主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関するこ	<p>◎自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めるための教材を各学年に6～9点用意しています。</p> <p>この視点の教材には、次の内容項目が系統的に考えられるよう網羅されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さ ・自然愛護 ・感動、畏敬の念 ・よりよく生きる喜び（5～6年） 	 <p>Dの視点の シンボルマーク</p> <p>→4年 P.156 「35 五百人 からもらった命」(生 命の尊さ)</p> <p>5年 P.64 「13 海を耕 す人たち」(自然愛護)</p> <p>3年 P.92 「21 花さき 山」(感動、畏敬の念)</p> <p>6年 P.116 「25 すあし にサンダルの天使— マザー・テレサ」(よ りよく生きる喜び) な ど</p>